

# Wesley Hall News



青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

## 創刊100号記念

No. 100  
2009.4.1.

### 特集 入学

説教「『地の塩』であるということ」…………… 嶋田 順好… 2

#### ●メッセージ

幼稚園 …………… 川島 祥子／鈴木 法子… 4

初等部 …………… 濱中 亜美／桑原 幸菜… 5

中等部 …………… 鈴木 知明／齊木 雄高… 6

高等部 …………… 神永 あい子／小原 しえり… 7

女子短期大学 …………… 吉岡 康子／市東 栞… 8

大学 …………… 黒沼 健／尾崎 奏美… 9

●WHN復刊100号記念座談会 青山学院で教育を受けて …………… 10

●「地の塩、世の光」仕事と信仰 …………… 北城 恪太郎… 18

●キリスト教図書紹介 かあさんのおい …………… 石出 道雄… 19

●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その27… 氣賀 健生… 20

●私の教会 日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会 …………… 馬越 嶺… 22

●コラム キリストの受難 …………… 23

●宗教センターだより …………… 23

## 説 教

# 「『地の塩』であるということ」

マタイによる福音書5章13節



嶋田 順好

学院宗教部長

ご入学おめでとう。皆さんは、期待に胸をふくらませて青山学院の門をくぐられたことと思えます。入学した皆さんに真っ先に覚えて欲しい言葉は、青山学院のスクール・モットーの「地の塩、世の光」という言葉です。とても覚えやすく、一度聞いたら忘れられないほどインパクトを感じさせられる言葉でしょう。このモットーは、イエス・キリストの山上の説教の一節からとられたもので、教育・研究共同体としての青山学院の目指すべき課題が、簡潔に言い表されています。青山学院は「地の塩、世の光」となる人を育み、生み出すキリスト教学校なのです。とても単純なモットーですが、そこには深い意味が込められています。今日は、特に「地の塩」ということについて、しばらく皆さんと一緒に思いを巡らしてみたいと思うのです。

私は料理をすることが小さい頃から大好きでした。特別なご馳走を作るわけではありませんが、今でも家にいる時は、気軽に台所に立って炒飯や焼きそば程度のものは作ります。自分なりに体得した料理のこつに、塩加減の大切さというものがあります。皆さんにぜひ試してほしい単純な実験があります。一口大の生肉を二つ用意し、一方には軽く塩を振りかけてしばらくなじませ、もう一方は、塩を振りかけないままにしておきます。その二つの肉を、一緒にフライパンで焼き、食べ比べてみてほしいのです。もちろん、軽く塩を振りかけて焼いた肉の方が、断然美味しいと感じるに違いありません。元々は同じ肉なのに、そこには衝撃が走るほどの味覚の違いが歴然と出てきます。つまり、塩には、

食材の「旨み」そのものを引き出す働きがあるということです。旨みを引き出すのですから、そこで塩辛さが発揮されてはなりません。自らの味を殺し、料理のなかに溶け込ませ、素材の旨みを引き立たせる役割を果たす、それこそが塩の本領というものです。「地の塩」と言われるときの塩の働きには、まずもって、今述べたように自分を目立たせることなく、隣人や社会の良い面を誰にも気づかれないように静かに見事に引き出す働きを担うという意味があるのです。

しかしまた、塩にはもう一つの大切な働きがあります。それは腐敗を防止し、清めるという働きです。塩こそは、人類が最初に手に入れた保存料と言ってよいでしょう。言うまでもなく腐敗防止のために塩を用いるときには、塩を存分に用いなければなりません。口に入れた瞬間、「うわ、塩っかしい」と顔をしかめなくなるような強烈な塩味がなければなりません。思うに、日本人の特性として、旨みを引き出す「地の塩」としての働きは上手にできても、腐敗防止のために辛さを発揮させるような「地の塩」としての働きを担うことは不得手という人が多いのではないのでしょうか。

ここ数年、若い人を中心に「KY」という言葉が流行していますが、少し前まで、私はそれが「空気の読めない人」という意味であることを知りませんでした。あらためて自分が、時代の空気に鈍感な「KY」人間であることを思い知らされたことです。しかし、その言葉が流行していることに対して、私はある危惧を感じないわけにはいきません。もちろん、とんちんかんな言

動をしないように、すぐその場の空気を察知し、適切な立ち居振る舞いをするセンスを身につけることは、世の中を生きていくときの、大切な心得の一つです。しかし、私たちは、いつでもどこでも、たくみに状況に適合し、時代の流れに身を委ねていればよいということではないはずです。時には付和雷同することをやめ、断然、塩辛さを発揮し、言うべきことをしっかりと行って、社会の腐敗を防ぐための働きを担うことも求められているのです。

青山学院の卒業生に山本七平という人がいます。在学中に青山学院教会で洗礼を受けてクリスチャンとなり、山本書店という小さな出版社を営みつつ、独自の切り口から実に多くの日本人論、比較文化論を著した方です。代表作に『空気の研究』という有名な本があります。とても風変わりな書名でしょう。これだけで中身を予測できる人がいたとしたら、たいした洞察力の持ち主です。最初にこの本の存在を知った時、私はてつきり、自分が吸ったり、吐いたりしている空気を科学的に分析した本なのかなと思ってしまいました。しかし、この本が扱う空気とは、「KY」で表現されているところの「空気」だったのです。

冒頭のところには、太平洋戦争末期に撃沈させられた戦艦大和の出撃経緯が取り上げられています。大和は、片道分の燃料だけを積み、沖縄本土の浅瀬に乗り上げ、動かぬ砲台となって敵の陸上部隊を砲撃するため、1945年4月6日午後4時、出撃しました。しかし、日本軍の暗号をすべて解読していた米軍は、翌朝、新鋭空母12隻、艦載機およそ800機を出撃させました。日本側には、大和を護衛する戦闘機は1機もありません。大和は、目的地のはるか手前、徳之島沖で、撃沈させられてしまったのです。戦死者は伊藤整一第二艦隊司令長官、有賀幸作艦長以下2,740名、生存者はわずか269名でした。

日本軍はこの時まで3年以上も米軍と戦ってきていますから、戦力的なデータを冷静に分析すれば、軍事の専門家集団である海軍参謀本部の誰しものが、この作戦が成功しないことを納得できたはずですが。実際、現場の最高指揮官であった伊藤第二艦隊司令長官も、当初は納得できな

かったのです。しかし、結局、この作戦は実行に移され、多くの前途有望な若者の命が失われてしまいました。

戦後、無謀な作戦がなぜ決行されたのかとの質問に対し、最高責任者であった豊田副武連合艦隊司令長官は「私は当時あせざるを得なかったと答うる以上、弁疏しようと思わない」と答え、小沢治三郎軍令部次長も「全体の空気よりして、当時も今日も(大和の)特攻出撃は当然と思う」と答えるのみでした。皆が皆、その場の空気に吞まれてしまったというのです。このような事実に対し、山本七平は、『『空気』とはまことに大きな絶対権をもった妖怪である』と述べています。

これで「KY」という言葉が流行することに対し、なぜ私が危惧の念を抱くかが、少しは分かってもらえたのではないのでしょうか。

明らかにおかしいと思いながらも、人はいともたやすくその場の空気に呑み込まれ、過った方向に突き進み、とてつもない悲劇を生み出すことに加担してしまうことがあります。そのような時、「地の塩」たる人は、世間からいわれなき非難や村八分にあう苦しみを引き受けても、本来の辛さを発揮し、「それはいけない。間違っている」と、腐敗を防ぐための声を上げ、諫めることができる人のことを指しています。

どうしたら私たちはそのような本当の自由や勇気を持ち、「地の塩」としての働きを担うことができる者となれるのでしょうか。言うまでもなく現実を正しく洞察し、確かな判断を下すためには自らをしっかりと支える本物の知恵を与えられていなければなりません。旧約聖書の箴言1章7節には「主を畏れることは知恵の初め」という御言葉が記されています。主を畏れることを知らされてこそ、私たちは様々な人間の思いやその場の空気を恐れない人とされるのです。青山学院は、幼稚園から大学院に至るまで、聖書を通してその知恵を共に学ぶ学校です。この学舎で、皆さんが神を畏れる者として、「地の塩」として豊かに成長していくことができますようにと心から祈りつつ、私の入学のお祝いの言葉といたします。

## 神様との出会い

### 川島祥子

幼稚園主事



新入園児のみなさん、保護者の皆様、ご入園おめでとうございます。これから、みなさんとの幼稚園での生活が神様から祝福され、喜びに満ちたものとなりますように、心からお祈りします。幼稚園は、神様がともにおられる、子どものお庭です。そこで、じっくり自分の好きな遊びに熱中したり、お友だちと一緒に過ごす楽しさを味わったり、自然のおもしろさや不思議さを発見したりと、様々なことに会うことでしょう。そして、目には見えないけれど、いつも私たちと一緒にいてくださり私たちの祈りに答え、必ず良いようにしてくださる神様に子どもたち一人ひとりが、出会う場なのです。保護者の皆様にも心に留めていただきたいことは、私たちの目には絶望と映るようなときでも、そのことを越えて、神様は私たちを必ず真実なことに導いてくださるお方だということです。子どもたちは、とりわけ礼拝を通して、聖書のお話を聞き、そのような神様に会っていきましょう。保護者の皆様も子どもたちとともに神様に会っていただきたいと私たちは願っています。幼い魂が神様の愛に触れ、満たされて人生の歩みを始めていくことは、かけがえのないことだと思えます。それ故、私たち保育者も委ねられた責任をひしひしと感じます。三年間、子どもも保護者の方も教職員もともに、どのようなことがあっても、神様の恵みの中で、神様からの視点を教えられて、ともに育ち合い、心合わせて歩いていきたいと思えます。



## 一緒に育っていきましょう

### 鈴木法子

幼稚園教諭



新入園児の皆さん、ご入園おめでとうございます。四月から皆さんは青山学院の仲間になりました。青山学院幼稚園は、たくさん遊び、たくさん学ぶことのできる楽しい場所です。ブランコも、おたまじゃくしも、積み木も、そして先生たちも幼稚園のお兄さんやお姉さんも、皆さんが幼稚園にいらっしゃるのを楽しみに待っていましたよ。たくさん遊んで、いっぱい心と身体を動かして、幼稚園で過ごしましょう。

楽しいことがいっぱい幼稚園ですが、時には困ったことや悲しいこともあるかもしれません。でも、どんなときでも、神さまが守ってくださいますから心配しないでくださいね。先生と一緒に、たくさんお祈りしましょう。

新入園児の保護者の皆さま、ご入園、おめでとうございます。保護者の方々もお子さまと同様、期待と不安を胸に入園の日をお迎えになったことと存じます。私たち教職員は、子どもも大人も一人ひとりが、神さまにつくられた、かけがえのない存在であり、それぞれが神さまから異なる賜物をいただいていると考え、日々、幼稚園の仕事にあたっております。幼児期の成長は目覚ましいものですが、お子さま方の成長していく力に負けにくい、私たちも日々、学びつつ育ちつつ保育にあたっていきたくて考えております。

子どもたち、保護者の方々、教職員で、ともに育ってまいりましょう。

## ようこそ、初等部へ

濱中 亜美

初等部教諭



新一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

初等部生としての第一歩を踏み出す今、希望に胸を膨らませていることでしょう。新しい先生、お友だちとの出会いと、初めての教室での新しい生活がまっています。たくさん楽しいことやうれしいことがあるでしょう。がまんすることや苦労することにつながることもあるでしょう。

初等部には、そのどんな時にでも大切に「五つのお約束」があります。「親切にします」「正直にします」「礼儀正しくします」「よく考えてします」「自分のことは自分でします」。毎年、新一年生は、入学式で「五つのお約束」を部長先生から教えていただきます。その日から、「五つのお約束」を心の中におぼえ、初等部生としての生活が始まるのです。

お友だちが困っているとき、電車やバスの中でお年寄りの方が立っているとき、「親切にします」を思い出してください。また、いつも気持ちよくあいさつをし、目上の方には、ていねいな言葉で話します。「礼儀正しくします」ですね。このように「五つのお約束」を生かせるときをたくさん見つけ、行動できるようになってください。

さあ、新しい日々、先生方や上級生と、共に祈り、共に学んで行きましょう。

## しょとうぶの生活

桑原 幸菜

初等部 2年



一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。このはるからしょとうぶのなかま入りですね。しょとうぶでは、たのしいことがたくさんあります。ずこうしつでは、先生がずっこけレンズをつかってイルカや王かんなど、どんなものでもまほうのようにつくって下さり、わたしはいつもおどろきます。また、木ようランチオンは、おりょうりがあまりにおいしくてほっぺがおちます。

なかよしキャンプでは、こうげんのソフトクリームや、みんなでつくったバターをパンにぬってたべると、せかいで一ばんおいしくかんじます。そして、キャンプではとび田ぶちょう先生からしんやくせいしょをいただきました。このせいしょは、キャンプのおもいでといっしょに、わたしのたいせつなたからものです。

金よう日のあさは、きとうかいがあり、みんなでおいのりしたりします。きとうかいがおわると、れいはいどうの出口で、せいしょのことばやイエスさまのえがかいてあるカードをいただきます。わたしは、このカードが大すきです。こうとうぶ生のわたしのあねは、しょとうぶのときにこのカードにかいてあったことばが、いまでもこころにのこっているといっています。わたしも、このカードの中から、大すきなことばがたくさんできるのかとおもうと、わくわくします。

みなさん、しょとうぶは本とうにたのしいことばかりです。四月にあえるのをたのしみにしています。



## 出会いを大切に

### 鈴木 知明

中等部教諭



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

どのような気持ちで入学を迎えられているのでしょうか。多くの方が、中等部での様々な出会いに対して、期待と不安が入り混じった気持ちを持っているのかと思います。異なる小学校から進学してきた多くの仲間との出会い、クラブ活動等を通じた先輩との出会い、英語を初めとした新しい教科との出会いなど、多くの出会いがあるはずです。少し勇気が必要なこともあるかもしれませんが、どんな出会いに対しても、積極的に取り組んでみてください。初めは上手くいかないこともあるかもしれませんが、その出会いから多くのことを吸収でき、大きく成長できるはずです。

特に、毎日の礼拝を通じた、キリスト教との出会いを大切にしたいと思います。礼拝は、キリスト教への理解を深めると同時に、自分を見つめなおす良い機会となります。また、礼拝でお話ししていただく聖書の言葉は、すぐには理解できなくても、ふとした機会にその真意に気づかされ、皆さんの生き方の道しるべとなってくれるはずです。

3年間は長いようでも、あっという間に過ぎていきます。過ごす時間は同じでも、過ごし方により、その濃度は異なります。皆さんが、より充実した中等部生活を送ることをお祈りしています。

## 新入生の皆さんへ

### 齊木 雄高

中等部3年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

内部進学の人達にも、厳しい入学試験を通過してきた人達にも、僕から皆さんへ伝えたいことがあります。

それは「楽しみましょう！」この一言に尽きます。

これから始まる生活は、きっと皆さんにとってかけがえのないものになってくれるはずです。

皆さんの中には不安を抱えている人もいられるかもしれませんが、心配はいりません。

入学してすぐのオリエンテーションキャンプですぐに友達はできると思います。

それに勉強も授業をきちんと聞いていれば、わからなくなることは無いと思います。

とにかく、積極的に楽しみましょう。ただ適当にダラダラと過ごしていると、単調な毎日に嫌気がさしてしまいます。

この学校には、楽しいことがたくさんあると思います。その一つに部活があります。中等部にはクラブや同好会が合わせて40以上あります。興味のあるクラブに入ってみるのも、気の合う友達を誘って一緒に新しいことに挑戦してみるのも良いと思います。

最初はうまくいかないこともあるかもしれませんが、諦めずに続けてみましょう。努力した分だけ自分の力になってくれるはずです。

僕たち上級生は皆さんと一緒に学校生活を送れることを楽しみに待っています。



## “Christ” “Way” “Truth” “Life”

神永あい子

高等部教諭



## 高等部の生活

小原しえり

高等部2年



重苦しく曇った寒い午後。芽吹き前の木々は枯れているかのようにだった。高等部に初めて足を踏み入れた日である。4月からの勤務の打ち合わせの後、中庭を歩いてみた。三学期期末試験の時間割が目に入った。不気味に静まり返った校内は、生徒がほとんどいないからだ気付いた。一日に3科目、というのは、私の高校時代もそんなものだった、と眺め、しかし、二時限と三時限との間には…。「礼拝」と記されていた。試験期間中でさえも礼拝が守られていることは、県立の高校を卒業した私には、驚きと羨ましさを感じさせるものだった。高等部が好きになれそうだと思った。今は無い南A校舎1階の掲示板前でのことである。

北校舎1階から中央階段を見上げると、踊り場の窓の上に、4つの英単語が見える。もちろん踊り場に上がっても見えるし、上階から見下ろすこともできるが、私は1階からグンと見上げるほうが好きだ。“Christ” “Way” “Truth” “Life”…「Christ=Way=Truth=Life」…この繋がりは新約聖書ヨハネによる福音書14章6節を読むと分かる。それが校舎中央の壁に記されている意味は、説明の必要がないだろう。

北校舎もあと一年で取り壊される。この壁の文字をどれほどの高等部生が目にしてきたことだろう。直接に見ることができる最後の新生生として入学した、高等部60期生のあなたたち、入学おめでとう!!

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。内部進学の人、他の中学校から受験してきた人も、高校生活にたくさんの期待を寄せているのではないかと思います。

しかし、新しい環境の中で人間関係など様々な不安を感じている人もいるかもしれません。一年前の私も、期待と不安と複雑な気持ちでいっぱいでした。けれどもそんな心配は、入学してすぐになくなってしまいました。毎日何気なく過ごしていく中で、内部・外部の壁も無くなり、自然と友達ができていたからです。

高等部の生活の中心である毎日の礼拝では、先生方のお話を聞くことで、自分の人生の生き方について考えさせられます。中学までとは違い、高校生になると自分自身の意思がとても大切になります。誰かに頼るだけでは、高校生活も充実したものにはなりません。が、礼拝が支えとなり、今までの自分にはなかった新しい考え方もできるようになります。

聖書には「善いサマリア人」というたとえ話があります。このお話には、家族や友達だけでなく、たとえ他の民族でも隣人となり、その隣人が困っている時に助けてあげられるのが隣人愛であるという意味があります。

だから私は、高等部は礼拝と新しい友達と支えあいながら一緒に成長できる場所であると思います。みなさんの高等部での生活が、素敵なものになりますように。



## 神のまなざしのなかで

### 吉岡 康子

女子短期大学  
宗教主任



まなざしのなかで、人は育ちます。家族や周囲の人たちの愛にあふれたまなざしのなかで皆さんは育てられ、成長してきたことでしょう。しかしおとなになるにつれ時に人のまなざしに傷つけられ、また人の目を気にしすぎて自分を見失う時もあると知ります。

ルカによる福音書第22章61節に「主は振り向いてペトロを見つめられた」とあります。この時弟子のペトロは信じ従ってきた主イエスを裏切ったのです。そのペトロを見つめた主のまなざしはどんなものだったでしょうか。それは「祈りのまなざし」でした。なぜなら同章32節に「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」とあるからです。あなたは失敗してしまいました。けれども必ずそこから立ち上がる事ができる。そのために私は祈っている—この主イエスの祈りのまなざしのなかでペトロはやがて立ち上がり、主の十字架と復活の証人として前進します。

青山学院に入学された皆さんに、新しく出会う先生や友達からのたくさんのまなざしが注がれています。そして、その背後には、あなたをいつも見守られる神さまのまなざしがあることを忘れないでください。そのまなざしに守られている喜びと責任をいつも覚え、かけがえのない学びの日々が豊かなものとされますことを期待しています。この春から青山学院女子短期大学に就任させていただく私も、皆さんのために祈りつつ共に歩んで行きたいと願います。

## 新入生のみなさんへ

### 市東 栞

女子短期大学  
子ども学科3年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい仲間を迎えることができ、とても嬉しく思います。

女子短期大学では、キリスト教をととても大切にしています。始業礼拝にはじまり、月・水・金曜日のお昼休みの礼拝、夏期・冬期のキャンプ、チャペルコンサート、クリスマス・ツリー点火祭、クリスマス礼拝など、一年をとおしてたくさんのキリスト教行事が行われています。

また、宗教活動委員会やハンドベル・クワイア、聖歌隊、ゴスペルなどのクラブ活動も充実しています。

私は今年度、宗教活動委員長を務めることになりました。中学2年生の頃から教会での礼拝を守り、高校3年生の秋に洗礼を受けましたが、自分が教会に行っていることやクリスチャンであることを、どこか隠すような歩みをしていました。しかし、本学に入学してからは、キリスト教を土台とした学生生活や、礼拝司会などの奉仕活動をとおし、クリスチャンとして誇りを持つようになりました。神さまに守られて学生生活を送っているのだなと日々感じています。少しでも多くの皆さんに、神さまを知る喜び、行事に参加することの楽しさを伝えていけたらと思っています。充実した良い学生生活を過ごせるようお祈りしています。





## 「お気に入り」を 見つけませんか

黒沼 健

経済学部教授



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

青山学院大学はかなり大規模な総合大学です。相模原キャンパスだけで1万人近い学生がいますから、広いキャンパスでも場所によっては人が多すぎて、特に小さな高等学校から来た人はびっくりしたことでしょう。希望に満ちた大学生活のはずだったのに、周りに人間は大勢いるけれど誰も知らない「大都会の孤独」のような状況で、どうすればこの環境に慣れることができるでしょう。

私の提案はキャンパスの中に自分の「お気に入り」を見つけることです。「お気に入り」を持つことによって、その「お気に入り」を大切にしようとする主体的な行動が可能になります。大げさに言えば、喜びをもって毎日を過ごすことができるようになるはずですよ。あなたの「お気に入り」の場所は図書館の一隅かもしれませんし、ラウンジの片隅かもしれません。あるクラスの90分間がお気に入りの時間になることもあるでしょう。

私の「お気に入り」はウェスレー・チャペルです。ここにいると「青山学院大学は日本一の大学だ！」と思えてきます。チャペルに行って礼拝堂で讃美歌を歌い、聖書についてのお話を聞くと、自分がどんなに神に愛されているかを実感できるからです。大学礼拝が毎日ある相模原キャンパスは、間違いなく日本一の大学です。皆さんも自分の入学した大学が日本一であることを感じてみませんか。

## 導く神様とともに

尾崎 奏美

大学理工学部  
化学・生命科学科4年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！どのような大学生活を想像し入学を迎えたでしょうか。たくさんの勉強やこなししていかなければならないこと、また苦しいこともあるでしょう。今までもそうだったように、いや今まで以上に様々な人との出会いがあるでしょう。しかし、大学生活はそれらがただの出来事に留まらず、それらを通して人格を磨き、人格を確立していく時であると思います。聖書にはこのような言葉があります。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」（エレミヤ書29章11節）

「わたし」とは神様です。今現在期待があってもなくても青山学院大学での4年間は皆さんのこれからの人生でとても大きな部分を占めるでしょう。神様はこの道があなたにとって良いものであると言っているのです。3年前、私は大きな期待を抱いていたことを思い出します。しかし、その想像をはるかに超えて素晴らしい経験と成長がありました。それは青山学院大学に入学していなければなかった経験です。楽しいことも辛いことも皆さんの人生の糧となり、卒業する時に青山学院大学に入学して良かったと心から思える4年間を過ごせますように。神様が導いてくださいますように。お祈りしています。



## WHN復刊100号記念座談会

## 青山学院で教育を受けて

青山学院創立90周年記念事業の一環として、ウェスレー・ホールの建設が計画され、その広報誌として『Wesley Hall News』が、建物に先立って1964年に創刊されました。この旧『Wesley Hall News』は1971年まで、全部で24号が発行されますが、学園紛争などによって中断されます。その後、13年間のブランクを経て、1984年に、それまでの続きの第25号としてではなく、復刊第1号として再スタートを切りました。そして本号で復刊100号を迎えました。

これまでも学内の教員や学生を中心にした座談会は幾つか行われて来ました。今回は、青山学院の一貫教育を受けてこられた方々に、お集り頂きました。

(W.H.N. 編集委員会)

**司会** 本日は青山学院の一貫教育を経験され、その大切さを感じておられる卒業生の方々に集まり頂きました。それぞれに母校青山学院への思いやその教育の意味について、自由に語って頂きたいと思います。皆様方にとって青山学院とはどのような学校だったのでしょうか。青山学院で学んで良かったこと、青山学院での出会いについてなどをお話してください。



**細谷** 自分の人生を振り返ってみると、3つの節目がありました。一つ目は、青山学院に入学することによってキリスト教教育に触れたことです。二つ目は、神戸に赴任していた時、阪神淡路大震災に遭ったことです。凄惨な状況の地域に住んでいたので、生き残ったことを強く感じました。そ

して人や自然の力を超えた神の力といったものを意識するようになりました。三つ目は東京に戻ってからですが、住まいの近くにある経堂緑岡教会に通うようになり、洗礼を受けたことです。

青山学院で得た最大の収穫の一つは、祈ることを教えられたことです。お祈りを通して神の存在を知りました。現在、私にとって祈ることは特別なことではなく、ごく当たり前のことになっています。私の人生の半分を占める青山学院での学びは、祈りと共に歩んでいたように思います。私にとって大きな恵みです。

**芦田** 私は両親がクリスチャンだったので、幼い頃に小児洗礼を受け、高等部時代に堅信礼(信仰告白)を受けました。そのきっかけとなったのは、初等部時代にお世話になった高村喜美子先生が亡くなられたことでした。高村先生の死は、当時の私にとって大きなショックでした。

その時から人生について真剣に考えるようになり、教会に通い、堅信礼へと導かれました。

結婚して子どもが生まれ、子育てをするようになってから、教え方を学びたいと思うようになり、現在は社会人入学に関心を持っています。同じような関心を持っている人は大勢いると思うので、学院がもっと門戸を広げてみてはどうかと思っています。

**佐藤** 私が中等部の時、聖書の時間に教会へ行くという課題が出されました。家の近くに教会があったので、その礼拝に出席し、そこから教会とつながるようになりました。そして大学4年のクリスマスに洗礼を受けました。その後、結婚して2人の子どもが与えられ、2人とも青山学院に入学したので、学校の近くに引っ越し、子どものために、住まいの近くにある教会に籍を移しました。もともと実家がクリスチャン・ホームですが、私の場合、青山学院を通して、教会へ導かれたと感じています。



**樋口** 教会には幼稚園の時から通っていました。住まいの近くにある角笛幼稚園という日本基督教団高井戸教会附属幼稚園だったためです。母はそこで受洗しました。その後、千葉教会を経て、現在は下北沢にある頌栄教会に出席しています。この頌栄教会で洗礼を受けました。大学時代はスキーに熱中し、合宿などの関係で教会から離れることもありました。しかし現在は日曜日に教会で礼拝を守ると共に、学校でも日々礼拝を守っています。毎日聖書を開き、讃美歌を歌い、いろいろな先生方のお話を伺うという生活を送って行く中で、信仰を育てられていると感じます。

私は他大学で、初めて青山学院を出て、神様のお出でこない入学式・卒業式を経験し、それまで当たり前のように青山学院で受けてきた礼拝形式の入学式・卒業式が、いかに自分にとって大きな意味を持っていたかを知らされまし

た。神様の存在なしに、「向上心をもって自分を磨きましょう」とだけ言われるのと、神様の造られた掛け替えのない私たち、という前提で「地の塩・世の光として生きていきましょう」と言われるのとでは、私にとって説得力が決定的に違っていたのです。



**竹内** 私は現在中等部で体育の教員をしています。悲しい時、苦しい時、心折れそうな時、神様に助けを求め、神様に支えられています。中等部・高等部在学中は、礼拝を大切にすることができませんでしたが、神様と向かい合う機会を、継続的に与えられたことに、いまは、感謝しています。

**大野** 私は一昨年の春に卒業し、就職したばかりですが、青山学院の良さは外に出ることによって初めて分かったと痛感しています。会社で人を信用して痛い目に遭った時もありましたが、人を信じる心を持たない人間というのは悲しいと思いました。敵と思われる人や、他者を思いやることのできる感性を育ててくれた青山学院は、本当に素晴らしい学校であると思います。

私は絵の勉強をしたかったので、女子短期大学の芸術学科へ進みました。その間、大好きだった初等部で、美術クラブのアシスタントをしました。合宿に短大の友だちをアシスタントとして一緒に連れて行ったのですが、後でその友人が「とっても良い体験ができたね」と言ってくれたのがすごく嬉しかったです。こうしたボランティア活動を通して、学院間のつながりもあってよかったなあと思っています。

**司会** 保護者の立場からは、青山学院の教育をどのように見ているのでしょうか。

**芦田** 青山学院の良さは、生徒たち一人ひとりの個性の大切さを、先生方が教えてくださるところにあると思います。初等部の時、「神様が私



旧「Wesley Hall News」  
創刊号(1964年4月)

Wesley Hall News



旧24号(1971年12月)

Wesley Hall News



復刊第1号(1984年10月)

1984年10月20日、  
復刊第1号が発刊

Wesley Hall News



第10号(1986年12月)

# Wesley Hall News

# 表紙でつづる

Wesley Hall News



第80号(2004年4月)

現在のスタイルに  
デザイン変更

Wesley Hall News



第77号(2003年9月)

相模原キャンパスが開設!

Wesley Hall News



第73号(2002年9月)

思い出の詰まった世田谷  
キャンパスと厚木キャン  
パスの閉鎖を前にして

Wesley Hall News



第69号(2001年9月)

ガウチャー記念礼拝堂完成!

Wesley Hall News



No. 83

2005.3.7

第83号(2005年3月)

Wesley Hall News



No. 85

2005.9.20

第85号(2005年9月)

Wesley Hall News



No. 86

2005.12.5

第86号(2005年12月)

全学院で共通して行う  
クリスマスツリー点火祭

Wesley Hall News



No. 88

2006.4.1

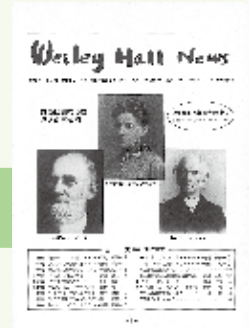
第88号(2006年4月)



第22号(1989年12月)  
表紙がカラー刷りに!



第30号(1991年12月)



第42号(1994年12月)  
学院創立120年を記念して



第50号(1996年11月)  
Wesley Hall News  
50号、ちょうど半分!

# 100号のあゆみ



第63号(2000年1月)  
キリスト降誕2000年を  
記念して



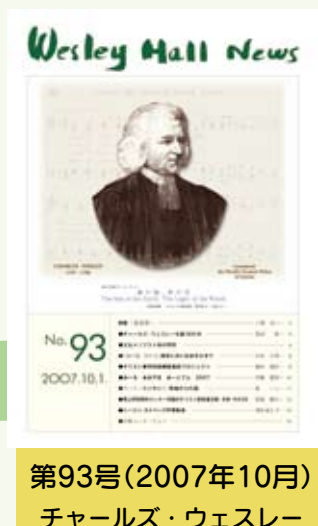
第60号(1999年4月)



第54号(1997年12月)



第89号(2006年9月)



第93号(2007年10月)  
チャールズ・ウェスレー  
生誕300年記念号



第96号(2008年4月)

第100号  
(2009年4月)  
発行

にだけ下さった価値がある」ということを教えて頂きました。その支えがあつて、これまで生きてこれられました。青山学院の生徒は競争心が無いとか、脆弱であるとかよく言われますが、キリスト教教育を通して良心を与えられたことは、何よりも大切だと思います。友のことを考えて祈る、感謝して祈るといったことは、今日教わって明日できるものではありません。毎日の積み重ねであり、礼拝の教えの中で身に付けてゆくものだと思います。以前、『人生に必要な知恵は、すべて幼稚園の砂場で学んだ』という本が話題になりました。私もそのようなことを幼稚園のホールや礼拝堂で学んだような気がします。

**司会** 今、礼拝のことがいくつか出ましたが、皆様にとって、母校を感じるのとはどんな時ですか。

**細谷** 私は地方勤務を経て東京に戻ってから、母校の青山学院で学べたことがいかに幸いであつたかを感じるようになりました。初等部の時から一緒だった友人たちと、10年ぶりに再会した時でも、まるで先週まで一緒だったような、そんな共有感があるんです。

青学の校風は、他者への優しさや思いやりがあることだと思います。建設業界や不動産の仕事はお金が大きく動くので、悪い誘惑も非常に多い世界です。しかし青山学院で学んだことにより、人は見ていなくても、神様は見えておられるという意識が常にあります。業界のスタンダードではなく、心のスタンダードを持てたこと。自分のポリシーがキリスト教信仰によって明確にされたことは、本当に感謝したいことであると感じています。

**佐藤** 目に見えない本当に大切なつながりを感じる時、「青学っていいなあ」と思います。そして同じことを子どもたちにも感じてほしいと願うからこそ、自分の子どもたちも入学させました。

**司会** では現在、教員として関わっておられる先生方に少しお尋ねしてみましょう。母校につ

いて、生徒たちに一番伝えたいものは何でしょうか。

**樋口** 中学・高校時代は年齢的にも反抗期の人もいます。しかし、礼拝中に目をつぶって寝ているように見える生徒が、じつは説教をしっかりと聞いていて、あとで感想を述べてくれたりすることがあるんです。長い目で、「種蒔き」だと思つて聖書の言葉を伝え続けることが大切であると、常々強く感じています。信じる・信じないは別として、まず聖書を開いて、礼拝での話をしっかりと聞いて、その上で自分を判断してほしい。青山学院が大切にしているものを、自分が大切にしているものと同じように大切にしてほしいです。

**竹内** 神様と向き合う「心地良さ」を経験してもらいたいと思います。聖書の言葉に心動かされる瞬間、讃美歌を歌う喜びを経験してもらいたいのです。生徒には、「食わず嫌い」になることなく、キリスト教との出会いに、挑戦してもらいたいと願っています。

**司会** 讃美歌のお話が出ましたが、つい、歌いたくなる讃美歌、心に染み付いているような讃美歌はありますか。



**大野** 中等部生、高等部生が讃美歌を歌わないという話が出ていましたが、私はそれでもいいと思います。強制されると礼拝が嫌いになってしまうと思うんです。学生時代に反抗的で、礼拝に出ることを嫌がっていた人も、社会に出ていろいろな経験をすることによって、自分には戻る場所があると知らされます。そして戻る場所があるということが、どんなに素晴らしいことであるかを実感するようになると思うんです。私自身、学生時代に母の日やクリスマスに歌った讃美歌は心の中に染み込んでいて、そういう曲が流れると、

自然と歌っている自分にハッと気付かされたりします。

**樋口** 高等部では、453番の「きけや愛の言葉を」になると、皆が大きな声で歌い出します。テンポというリズムというか、生徒たちには乗りやすい曲のようですね。高等部では、生徒の半数近くが外部から入って来るので、できるだけ皆が知っている曲を選ぶようにしています。『讃美歌 第二編』の189番「丘の上の教会へ」のような曲も、中等部から上がって来た生徒たちは「ほら、ティン ドン、ティン ドン…」なんてハモったりして、意外とよく歌います。

**竹内** 中等部では『讃美歌 第二編』1番の「ここを高く上げよう」が礼拝でも歌う機会が多いので、生徒たちもよく歌っていますね。

**細谷** がらっと変わりますが、『讃美歌』405番の「神ともにいまして」。これは絶対に外せない讃美歌だと思います。涙が出ますよね、なんかもう条件反射で…。

**司会** 礼拝での話や聖書で印象に残っているものはありますか。



**芦田** 私は幼稚園生の時に初めて聞いた、新約聖書の「タラントンの譬え」、これがずっと心に引っかかっています。幼稚園生の時は、「なぜ1タラントンを大切にしまった人が怒られなければならないのか」と疑問に思いました。その疑問は私の中に長い間残り続けましたが、初等部、中等部、高等部、大学へと進み、繰り返し同じ聖書箇所を学ぶ中で、「ああ、こんな意味もあるのか!」と、その度に新しい意味を示され、考えさせられました。そしてこの点に、一貫教育の良さがあると思うんです。種を蒔き続けることの大切さとともに、種を蒔かれ続けることの大切さを実感しています。

**司会** 青山学院の教育の中でこれからも大事にしてほしいもの、これだけは失ってほしくないもの、青山学院に期待することがらについてお話ししたいと思います。さらに、第100号を迎える『Wesley Hall News』への期待や提言、アイデア等もあわせてお聞かせください。





**細谷** 優れた知識や技術を学べるということが素晴らしいのはもちろんですが、心の教育というものを、これからも大切にしてほしいと思います。信仰を通して心の教育があるということが、青山学院ならではの良さであると思っています。

『Wesley Hall News』について言えば、記念すべき100号を迎えるということですが、今後も途切れることなく続いて行くことが大切であると思います。また、ガウチャーホールのエントランスを始め、数箇所に置かれていると思いますが、もっと手軽に取れる場所が増えれば良いと思います。



**佐藤** 教会の礼拝に初めて来た人たちが紹介される時、青山学院の学生や卒業生がとても多いことに気付かされます。そういった意味で、青山学院の使命

は非常に大きいと思います。現在、初等部には「青山学院の歴史」という授業があり、家で息子や娘とテキストを読むことがあります。戦時下の中でキリスト教教育を続けることが厳しい時代にも、宣教師たちはキリスト教教育を大切に守り抜いてきたことを知らされました。先人が

守って来た建学の精神を、しっかりと守り続けてほしいと思います。そして、これから社会に出る学生にはぜひ、深町前院長がよく引用されたラインホルド・ニーバーの祈り(注)を胸にして、頑張ってほしいと思います。

**竹内** 神様との出会いを大切にしている学校であってほしいと思います。私は、初めて礼拝に出席した時、お祈りは、手を合わせるのか、組むのか分からず戸惑いました。礼拝に興味はあっても、礼拝堂に入れずにいる学生もいると思います。『Wesley Hall News』が、神様との出会いを支え、神様と向き合う時間を支える冊子であってほしいと思います。

**樋口** 伝統的な礼拝スタイルを守ると共に、現代の若者たちに訴える新しい礼拝スタイルも必要であると思います。多様性というか、いろいろなアプローチが出来たら良いと思います。また、生徒に対してだけでなく、教職員に対しても、キリスト教を知るプログラムをもっと作ってほしいです。

『Wesley Hall News』に載っている生徒たちの証しで、とても感動させられるものがあります。生徒たちの証しをもっと読みたいですし、専門の先生が分かり易く書いてくださったものも読みたいです。とにかく、あらゆる年代の



人が読むものでもあるし、どこでその人の琴線に触れるか分からないので、いろいろな企画があつてよいのではないかと思います。

**大野** 「あなたの敵を愛しなさい」とか「隣人を自分のように愛しなさい」といった聖句に裏打ちされた心を育ててもらえる教育を、これからもずっと続けてほしいと思います。青山学院で育ってきたため、いろいろな人と、何の壁もなく接することができるようになったので、そういう教育を続けてくれることを期待します。将来、子どもが生まれたら、やはり青山学院に入学させたいと思っています。クリスマス・ツリー・点火祭のように、幼初中高短大を含む全学院で共通して行える行事がもっとあればよいですね。

**芦田** 青山学院が、幼稚園から大学院まで擁する総合学園であるということは、すごく大きなことであると思います。青山学院のキャンパスに入ると、安全地帯に入って守られたような気持ちになります。このキャンパスの中は、守られている空間です。この環境で育った学生たちが社会に出て行くということは、素晴らしいこ

とであり、大いに期待できると思います。

最近、『Wesley Hall News』が工夫を凝らしているように感じられます。大人も子どもも読める箇所がもっと増えてくれるとよいと思います。



**司会** ある時期本当に守られた経験、そうした空間の中にいた経験というのは、外に出ていった時にその人の優しさ等に繋がって行くのかもしれませんがね。

本日は多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

(注)

ラインホルド・ニーバーの祈り

「神よ、変えることの出来るものについて、それを変えるだけの勇気を我らに与えたまえ。変えることの出来ないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして変えることの出来るものと、変えることの出来ないものとを識別する知恵を与えたまえ」。

■出席者

**細谷智雄**：幼稚園から大学まで在籍。経営学部卒業後、建設会社に入社。現在は会社を起業し、不動産関係の仕事に従事。日本基督教団 経堂緑岡教会会員。

**佐藤潤一**：初等部から大学まで在籍。経済学部卒業後、銀行に勤め、その後、福音館書店に入社。大学時代に日本基督教団 荻窪清水教会で受洗。現在は聖ヶ丘教会会員。

**竹内隆太郎**：初等部から大学まで在籍。経済学部卒業後、他大学の体育学部で学ぶ。都内の私立学校非常勤講師を経て、現在は本学中等部体育科教諭。

**樋口玲子**：初等部から高等部まで在籍。数学

科教員を目指していたため、他大学に進学し、現在は本学高等部数学科教諭。日本基督教団 頌栄教会会員。

**大野華世**：初等部から女子短期大学まで在籍。芸術学科在籍中は、初等部の美術クラブでアシスタントを務めた。

**芦田美和子**：幼稚園から大学まで在籍。日本福音ルーテル教会 市ヶ谷教会会員。現在、4人の子ども全員(幼・初・中・高)が本学院で学んでいる。

■司会 **伊藤 悟**：大学宗教主任。一昨年度まで『Wesley Hall News』編集を担当。経済学部出身。

## 仕事と信仰

## 北城 恪太郎

日本アイ・ピー・エム(株)  
最高顧問

私は中学を卒業する際に担任の先生から、英語の成績が良くないと言われました。その先生の言葉に発奮し、高校に入り、英語を必死に勉強しました。そんな折、英語で礼拝を行っている教会があることを知り、勉強のために通い始めました。今から思うと、それも神様が備えてくださった道であると感じます。20歳になるまで礼拝に出席しましたが、その後は教会へ行かなくなりました。

しかし、1967年に大学を卒業し、社会人としての人生をどのように生きるべきかを考えていた時、友人の薦めがあり、再び教会へ行くようになりました。何か変わらない信念、価値観を持ちたいと思ったのです。教会で礼拝を守り、説教を聴き続けるうちに、自分を背後から見守ってくださる神様の存在を感じるようになりました。そして、この御方に従って社会人生活を送ろうと決心し、1967年のクリスマス礼拝において洗礼を受け、クリスチャンとなりました。

旧約聖書の中に「コヘレトの言葉」があります。以前使っていた口語訳聖書では「伝道の書」といいます。その12章1節には、「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」と書かれています。青年時代、この御言葉が、私の心に強く響きました。信仰をもって日々の生活を送るということは、本当に素晴らしいことであると痛感します。この聖書の御言葉を、若い皆さんに贈りたいと思います。

さて、社会人となった私は、第一線のシステムズ・エンジニアとして、コンピューターのソフトウェアを構築する仕事に従事しました。仕事は面白く、とても遣り甲斐がありました。しかし、同期に入社した仲間が昇進する中、いつまでも昇進しませんでした。けれども、思い悩

まず、仕事に取り組むことができました。それは、「神のなされることは皆、その時にかなって美しい。」(伝道の書 3章 11節)という御言葉を讀む度に、心に平安が与えられたからです。

36歳の時に管理職となりました。大手都市銀行の第三次オンラインのメーカー選定という厳しい競争環境のもと、最終的に当社が選ばれたのです。その後は思いのほか早く昇進しました。振り返ってみて言えることは、自分に与えられた使命を一所懸命に努力することが大切だということです。結果は良くても悪くても、それが自分に与えられた道であると信じ、努力し続けることが重要です。私の場合、信仰を持っていた故に、いつも心に平安がありました。

その後、48歳で社長に就任しました。当時、会社は業績が悪化し、初めての赤字決算という状態でしたが、「明るく楽しく前向きに」という標語を掲げ、全力で仕事に取り組みました。業績は次第に回復し、その成果が認められ、日本人で初めてIBMのアジア・太平洋地区の責任者となりました。新約聖書に次のような御言葉があります。「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい」(ペトロの手紙一 4:10)。経営者として生きること、それが自分に与えられた賜物であると思っています。

2003年の5月には、経済同友会の代表幹事に選ばれました。1期を無事に務め上げた後、さらに2期目も務めるという話が浮上し、大いに悩みました。しかしちょうどその頃、旧約聖書に登場するヨシアに関する説教を教会で聴きました。神様は年老いたヨシアに対し、「あなたは歳を重ねたが、占領すべき土地はたくさん残っている」と告げます。この御言葉を聴いた時、「そうだ、自分にも遣り残したことはたくさんある!」と痛感し、2期目もお引き受けすることに決めました。

その後、2007年4月に、日本アイ・ピー・エムの会長と、経済同友会の代表幹事を退任しました。振り返ってみると、人生のいろいろな局面で、聖書の御言葉に導かれてきたと思います。残された人生を、神様に従い、世のため、人のために生きて行きたいと願っています。

シリーズ「地の塩、世の光」は、各界でご活躍のキリスト者の「証し」を掲載するコーナーです。今回は、昨年の秋に北城恪太郎氏が大学のチャペル・ウィークでお話してくださった内容を、編集委員会でごまとめさせて頂きました。

## 『かあさんのにおい—ある乳児院の光と陰の物語』

石亀泰郎著 廣済堂出版

石出道雄

中等部教諭

“キリスト教関係図書の紹介”とは少し異なるかもしれませんが、“キリスト教関係施設の紹介本”でも良いと考え、「社会福祉法人二葉保育園」を扱ったフォトエッセイ集『かあさんのにおい』（石亀泰郎著）を紹介します。

「キリストの愛の精神に基づき、すべての子どもが愛され、健康に育つことを願い、特に困窮にある子どもたちが分け隔てなく、愛と理解と敬意を持って養育されるために活動します。子どもの個性を大切にし、子どもたちがかけがえのない人生を自らの力で獲得できるような養育を目標とします。子どもの家族が、地域社会で健康にその人らしい生活を営むことが出来るように、共に考え、共に活動します。」

これは明治33年（1900年）、野口幽香・森島（斎藤）峰により、東京麹町に設立され、四谷鮫河橋に移転して二葉南元保育園と改称し、二葉乳児院も併設された「社会福祉法人二葉保育園」の基本精神です。

四谷鮫河橋は東京の三大貧民窟のひとつであり、多くのルポライターがこの地域の悲惨さを記述しています。このような場所で明治43年（1910年）1月から、野口幽香がキリスト教会を始めました。これが後年二葉独立教会となり、現在の日本キリスト教団東中野教会へ発展したのです。野口幽香が招聘した初代牧師である由木康は、讃美歌の作詞者・訳詞者として知られています。

この本の中心は二葉乳児院の保母と養育

されている子どもの日常生活を、「傷だらけで駆け込んで」「トーマスさんの膝」「イエス様おんぶ」「クリスマ

スのローソク」「雪の日」「黄色い菜の花」などのタイトルで、写真と実話を物語り風にまとめたフォト・エッセイです。

「乳児院」で養育されている子どもは、“処遇困難”と判断された子どもで、子どもサイドの問題としては、虐待・未熟児・障害児・病気（肝炎など）があり、また親のサイドの問題としては、10代の母親・乗り越えられない精神的困難を抱えた親・子どもを虐待してしまう親などの増加があげられます。このような状況から子どもを守るために、二葉保育園では0～2歳児を40名あずかり、51名の保母が1日3交替で世話をしています。

1日の中で面倒を見てくれる保母さんが変わり、施設の中では日によって保育室が変わり、3歳になると“措置変更”と称して3歳児以後の別施設に変わる。「三つ子の魂百まで」と言われますが、この時期に不安だらけの生活を送らざるを得ない環境の子どもたちの心境と、そのような子どもを心の底から愛し、生活すべてを子どものために使う保母さんの心境が描かれ、読んでいて涙が出てくるエッセイです。私たちにあまり縁の無い施設ですが、このエッセイを読んで、日頃の生活の反省としたいものです。



#### 氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料紹介第27回。この史料紹介は今号を以て最終回となります。これまでに紹介した文献史料は次のようなものでした。まず現在日本にある数少ない聖書と讚美歌各種、中でもBiblia Latina, 1478ヴェニス版などは超貴重文献です。それとロマ語(ジプシー語)聖書などは恐らく当資料室以外に日本にはないでしょう。それに日本のキリスト教黎明期の諸機関の英文・邦文会議録・文献、当時の定期刊行物、宣教師関係史料、高札・踏絵等キリスト教関係史料。中でも「日本メソヂスト教会總會・年会記録」(全揃)、「護教」(ほぼ全揃)、「日本美以教会年会記録」、「Annual Report of Missionary Society of the Methodist Episcopal Church 1861-1929」、「Heathen Woman's Friend」等々、当センター所蔵の貴重史料でした。

さて最終回は、日本のキリスト教黎明期即ち幕末から明治初期の頃、宣教師や日本人キリスト者による聖書の解説及び初歩的指導書が大量に保管されていることを再発見しましたので、これらを紹介してこの史料紹介シリーズを完結したいと思います。

まず「天道溯原」をとりあげましょう。これは全世界を支配する神から始まって聖書全般に及ぶ漢文の論述で、米国丁韋良<sup>マルチン</sup>著、米国嘉魯日耳士<sup>カローザルス</sup>訳、日本中村正直訓點、耶穌降世一千八百六十年、明治8年出版、売弘書肆和泉屋市兵衛。平田平三氏蔵書、平田もと子氏寄贈、和装本帙入り3冊です。日本文書き下し「天道溯原・解」も併せて所蔵しています。

次に「訓點格物探原」。英国韋廉臣著、日本奥野昌綱校訂、東京十字屋蔵版、訓點者長野県士族熊野與、出版人東京府士族原胤昭、明治11年版で、The Property Methodist Mission Seminary, Bluff Yokohama 1880と書入れがあり、Tokyo Eiwa-Gakko, Philander-Smith Biblical Institute, Goucher Theological Library

とサインがありますから、青山学院の前身横浜山手神学校時代からの蔵書と思われます。初期の神学論で、帙入り和装本五巻。第二巻の目次には、上帝必有、上帝惟一、上帝至大、上帝全能、上帝全知全仁、上帝仁愛、とあります。

次に「宗教改革史」。エール大学名誉教授チヨルチ・パーク・フキシャー老博士著、マスターオブアーツ村田勤訳、明治42年警醒社版、654頁。価2円。

「神学略説」在日本米国宣教師襄維納屈士(George W. Knox)口述、東京府士族石川彝筆記、とありますが、上述の韋廉臣(Alexander Williamson)と同様に、この時代特有の漢字のあて字です。この本の表紙裏に東洋奇偉人と署名があり、青山学院へは無名氏寄贈となっています。明治17年版、帙入り4分冊。

「希魯離教論」上下。神父リギョル著、広瀬源八訳。書き出しに「基利斯督教創設二至ルマテノ希臘西史ノ大略」とあります。

これらの他に「神性論」「来世論」「組織神学」など、多様な神学、教会史が所蔵されています。中でも明治7年に文部省が自ら発行した箕作麟祥訳述「泰西自然神教」全4巻などは、今日から見れば大変貴重な書物でしょう。その他、同様に今日では貴重文献に数えられるものを列挙すると次の通りです。

「耶蘇教大意」一・二巻。米国嘉魯日耳士蔵版、明治8年版、和装本ですが、何と紀元二千五百三十五年刊行となっています。

山路愛山(彌吉)著「基督教評論」明治39年、警醒社刊、価50銭。冒頭に次の如き警句があります。「日本人の精神的活動を軟了せしめたる最大なる原因は蓋し徳川氏の政策ならざるを得ず。佛教は徳川氏の時に於て殆ど無一の国教となり其の保護を受けたり。」

松村介石著「不朽の道」明治41年警醒社刊290頁。価50銭。著者の「平岩大兄」に贈るサインがあります。

「絵入りメソヂスト史」ウィリヤム・ハベン・

ダニエルス著、田中達訳。明治29年教文館発行。青山学院実業部の印刷です。1012頁、昭和8年購入。

「美以教会史」米国人マクレイ夫人著、小方仙之助・佐々木三郎共訳。明治25年メソヂスト出版舎、222頁。これを青山学院は敗戦直前の1945年1月に購入しました。

「日本現今之基督教並ニ将来之基督教」金森通倫著。明治24年刊、価20銭。本の余白に“橄欖山人”の痛烈辛辣な批評があり、これは一読に価するでしょう。

まだまだありますが、次にいかにもキリスト教黎明期を思わせる問答集を紹介しましょう。まず「さいはひのおとづれわらべ手びきのとひこたへ」と題する小冊子に145問答が収められています。

一、問、なんぢをつくり

しはたれぞや

答、神なり

二、神はなんぢのほかにな

なをつくりしや

神はよろづのもの

をつくれり

三、神はなにゆゑになん

ぢとよろづのものをつくりしや

神はおのれのさかえをあらはさんため

なり

これはすべて変体ガナで書かれています。昭和10年購入です。

「初学問答」「校訂初学問答」明治27年発行、価2銭。“神のこと”と副題がついて、内容は上述と同じですが、最後の問答は次の如くです。

問百四十五 天といふはいかなるところぞや

答 栄光と歡樂とこしなへにしてください

の主とともにかぎりなくをるところなり

次に「信經問答」全。和装本31枚。昭和7年

購入。問答は次のように始まります。

あなたはなにゆへ教門にいりたいか

神をうやまひ且己が靈魂をすくふために

いかやうにして神をうやまふか

まことに神の教訓を信じてそのおきてをま

もる

なによりてその教訓と律度をまなぶか

聖書にてまなぶ

信經のをはりにあるアメンといふはいかなるわけであるか

わたくしは信經のすべての箇條をまことに信ずるといふわけである

「使徒信經問答」もありますが、上述の「信經問答」をやや詳細にしたものです。

次に「十誡問答」、昭和8年購入で、吉野作造蔵書の印がある貴重な文献です。すべて変体ガナです。

汝何によりて神の教を学びしぞや

我信經問答によりて学べり

何によりて神の法律の要約を知れりや

神の誠によりて知るなり

神の誠は何ヶ條あるぞや

十ヶ條あり

と続いてゆきます。これらの他「メソヂスト教会問答」和装本、耶蘇降世千八百七十六年、日本メソヂスト教会版。「浸禮教会問答」和装本等、その他にも多数所蔵しています。

最後に、新嘉坡堅夏書院蔵版「約翰福音之傳」善徳纂、を紹介してこの紹介シリーズを終わらしましょう。これは有名なギュツラフによる最初の日本語訳「ヨハネによる福音書」で、実に日米戦争が始まる直前の昭和16年2月に長崎書店が複製出版したものです。原本の出版年は定かではありません。解説者は高谷道男・秋山憲兄両氏で、この解説中に著者ギュツラフの詳細な傳記があります。次のように始まります。

ヨアンネスノタヨリヨロコビ

ハジマリニカシコイモノゴザル、コノカシ

コイモノゴクラクトモノゴザル、コノカシ

コイモノゴクラク

以上、27回にわたって資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料を紹介してきましたが、同センターには、まだまだこの紹介シリーズでとりあげ得なかった文献・史料が豊富にあります。読者諸氏の御利用を願って、擲筆。



## 日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会

馬越 嶺

初等部教諭

私の通う荻窪栄光教会は、日本イエス・キリスト教団(教団事務所：兵庫県神戸市)に所属しており、礼拝出席者は午前と午後での礼拝を合わせて200名前後です。JR中央線の「荻窪」が最寄りの駅で、都心からも近く、設立当初から上京者の受け皿教会として、毎年新しく社会人や大学生になった方々が教会の戸を叩いてきました。主幹牧師は中島秀一師・きよ子牧師で、秀一師は昨年より日本福音同盟(JEA)の理事長も務められています。副牧師として楠淳子師、千葉県西船橋市の枝教会には藤井正子師がそれぞれ牧会にあたっています。また、韓国の廣岷(カンヒョン)教会からは、楊慶運(ヤン・ギョンウン)牧師を、協力宣教師として2005年度からお迎えしています。とてもエネルギーが豊富な先生で、通常の牧会に加えて「ハングル語講座」と、「ハンドベルチーム」を始められ、ご夫婦で熱心に活動されています。

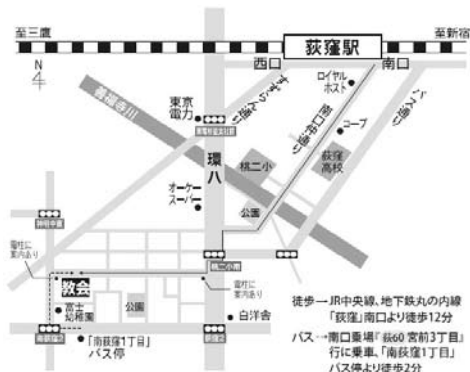
私たちの教会の設立者は、森山諭牧師と、中田羽後音楽牧師です。設立当初から、私たちは「音楽による伝道」を大切にしてきました。中田氏は「おお牧場はみどり」を歌詞されたことでも知られ、また、ヘンデルのメサイアを日本語に訳され、毎年クリスマスには日本語によるメサイア公演を行ってきました。昨年の12月には杉並公会堂で



第42回目の公演を迎えました。私たちの聖歌隊は、聖日礼拝の賛美に加え、超教派(教団・教派の枠を超えた)の集会でも賛美奉仕をしています。さらに、杉並区が後援する「荻窪音楽祭」にも参加し、地域との交流を深めています。また、ピアノやギター、ベースやドラムを使って神様を賛美する「賛美チーム」があり、ゴスペルソングを中心に構成された「賛美礼拝」を月に2回、午後の時間帯で捧げています。

荻窪栄光教会は2008年の4月に創立50周年を迎え、来る2012年には新しい会堂の着工も予定しています。次の50年、100年を見据えて、私たちは神様のためにどのような働きができるのか、心一つにして新しいヴィジョンを祈り求めています。これまでの「伝統」を大切にしつつ、時代のニーズに合わせて新しい伝道の形を創り出していく—これからの教会の在り方は、この両面から考えられていく必要があります。日本全体、世界全体が、先行きの見えない大きな不安に包まれ、心の闇が深まっています。こんな時代だからこそ、わたしたちキリスト教会の希望と慰めのメッセージがますます多くの人々に語られる必要があります。これからも、神様の大きな愛を、世界に向けて様々な形で証していく教会でありたいと思います。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11：28)



日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会

東京都杉並区南荻窪 4-6-11 ☎ 03-3334-1036  
ホームページ：http://eiko-church.com/

# 宗 教 セ ン タ ー だ よ り

## 幼稚園 より

### 始業礼拝

4月7日(火)

年中・年長組の子ども達と保護者・保育者が共に礼拝を守ります。この日から新しい学期がスタートします。

### 入園式

4月10日(金)

年少組になる新入園児40名の子ども達をお迎えします。

### イースター礼拝

4月16日(木)

年中・年長組の子ども達がイエス様の復活を祝い、礼拝を守ります。礼拝後は、庭のあちらこちらに隠された卵を探して楽しめます。



イースターの卵探し

### 母の日礼拝

5月15日(金)

お母様方をお迎えして、共に礼拝を守ります。

### 終業礼拝

7月10日(金)

1学期、神様が守り導いて下さったことを覚えて、感謝をいたします。

(教諭 久保小枝子)

## 初等部 より

4月6日(月)に新しい1年生128名が入学してきます。新しい年度も神様の守りのうちに歩むことができるように祈ります。夏休みまでのキリスト教教育活動は以下の通りです。

### 受難週祈禱会

4月8日(水)～10日(金)

イエス様が十字架にかかれる最後の1週間を御言葉を通して味わい、心を合わせて祈ります。

### キリスト教教育オリエンテーション

4月8日(水)～10日(金)

9時10分から10時10分まで、新しく1年生になった保護者の方々を対象に初等部におけるキリスト教教育についてオリエンテーションをします。初等教育は保護者の協力が不可欠です。6年間、共に歩むための大切なオリエンテーションです。

### イースター礼拝

4月14日(火)

12日(日)がイースターの日曜日になりますが、学校では、14日に守ります。この日は礼拝を献げ、イースターエッグをいただきます。

### お母さんへの感謝の集い(母の日礼拝)

5月11日(月)

初等部の「母の日」礼拝として、保護者の方々と共に礼拝を献げます。

### こどもの日・花の日礼拝

6月15日(月)

初等部では、キリスト者の卒業生の方に、子どもたちに証をしていただきます。

### 1年生なかよしキャンプ

7月14日(火)～18日(土)

山梨県清里の清泉寮にて、2泊3日で1年生が2つのグループに分かれてキャンプをいたします。ここでは、初めて初等部で使用する聖書がプレゼントされ、たくさんのお言葉に触れていきます。

(宗教主任 小澤淳一)

## 中等部 より

### 春のCF(クリスチャン・フェローシップ)ワーク

4月7日(火) 9:30～11:30

内容: 校内清掃など

### 入学式

4月8日(水) 9:30～

### 春の教職員修養会

4月8日(水) 13:30～15:00

## キリストの受難

今年のイースター(復活日)は4月12日ですが、それに先立つ1週間を受難週と呼びます。この1週間は特に、イエス・キリストの受けた苦しみ、私たち人間の罪を取り除くためであったことを覚え、キリストのご受難を想い起こすことに集中します。

今からもう5年前になりますが、『パッション』という映画が上映されました。この映画はハリウッドのドル箱スターであるメル・ギブソンが私財をなげうち、自らメガホンをとって製作した映画として、当時大きな話題となりました。映画の正式な題名は“The Passion of the Christ”、すなわち『キリストの受難』です。この題名が示すとおり、イエス・キリストが捕らえられ、十字架につけて殺されるまでの受難をリアルに描き、最後は復活の場面で終わっています。台詞に関して言うと、イエスや弟子たちはアラム語で話し、ローマ総督のピラトや兵士たちはラテン語で話しています。また、俳優の瞳の色まで変える等、徹底してリアリティにこだわった本格的な作品です。

この映画は、イエス・キリストがゲツセマネの園で苦しみもたえながら神に祈る場面から始まります。しかし注意して観ると、その場面の前に、旧約聖書の言葉が映し出されます。「彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。／彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちは癒された。—イザヤ書53章5節—紀元前700年頃」。この冒頭に現れる字幕は、これから描かれるキリストの受難が、既に700年前に旧約聖書に預言されていたことを明示しているのです。

ちなみに、この映画の中で、監督のメル・ギブソンが一瞬だけ、しかも身体の一部だけ出てくる場面があります。それは彼の左手であり、大きな釘を握っています。そしてその釘は、イエスを十字架に打ち付けるのです。メル・ギブソンはここで、イエスの十字架の責任は、自分自身の罪も一端を担っていることを告白しています。この映画を作った原動力が、彼の敬虔な信仰にあることを知らされます。(高砂民宣)

# 宗教センターだより

講師：上田光正先生(日本基督教団 美竹教会牧師)

## イースター礼拝

4月24日(金) 9:20～10:30

## 母の日・家族への感謝の日礼拝

5月8日(金) 10:20～12:00

奨励：晴佐久 昌英 神父

(カトリック多摩教会主任司祭)

礼拝の後、生徒による楽器演奏や作文朗読、カーネーションの贈呈が行われます。

## 保護者聖書の会

毎月第4水曜日 10:50～12:00

\*5月のみ第3水曜日(20日)

(宗教主任 西田恵一郎)

## 高等部 より

### 入学式、始業式

高等部は4月7日(火)に入学式を行い、新入生を迎えます。8日(水)に新入生オリエンテーション、9日(木)全学始業式、オリエンテーションが行われます。10日(金)は全学年英語テスト、生徒会による新入生歓迎会が行われ、13日(月)から授業が開始されます。

### イースター礼拝

今年のイースターは4月12日の日曜日です。高等部では、4月13日(月)にキリストの復活を祝って特別礼拝を行います。説教は浅原一泰先生(31期生、日本基督教団 高幡教会牧師)です。

### 保護者聖書の集い

今年度も保護者の方々のための「保護者聖書の集い」を毎月一度持ちます。聖書に初めて触れる人たちの会ですので、保護者であれば誰でも参加できます。具体的な日時は「高等部便り」でお知らせ致します。青山学院教育方針の基本にある聖書を学び、心の糧としていただきたいと思います。

(宗教主任 坂上三男)

## 女子短大 より

### 同窓校推薦入学生歓迎会

4月3日(金) 11:00～

短大礼拝堂

### 始業礼拝

4月4日(土) 10:30～11:25

青山学院講堂

説教：吉岡康子(宗教主任)

## 春の研修・親睦会

4月18日(土) 11:00～

短大礼拝堂他

## チャペル・ウィーク

5月18日(月)～22日(金)

## サマー・キャンプ イン 軽井沢

8月1日(土)～3日(月)

(宣教師 シェロ マイク)

## 大学 より

### キリスト教推薦入学生オリエンテーション

4月4日(土)

ガウチャー記念礼拝堂他

### キリスト教概論Ⅰオリエンテーション

4月6日(月)～4月10日(金)

ウェスレーチャペル

### 新入生歓迎礼拝

相模原 4月13日(月)～18日(土)

第二部 4月14日(火)

### チャペル・ウィーク

5月25日(月)～30日(土)

### バッハ・コレギウム・ジャパコンサート

6月1日(月)ガウチャー記念礼拝堂

### 宗教センター・グループ活動について

いずれの集いも自由に参加することができます。

○「青山学院大学聖書研究会」(宗教主任担当)

わかりやすく、楽しく聖書が学べます

○「フォーカス・グループ」(キリスト者教員担当)

文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰とのかかわりにおいて語り合い、考え合います。

(宗教センター 平野修一)

## 本部 より

### 教職員新学年度礼拝

4月9日(木) 17:00～

ガウチャー記念礼拝堂

新年度も礼拝をもって始めて参りましょう。

### 教職員聖書研究会が始まります!!

5月から開始の予定です。

担当は嶋田順好学院宗教部長で、毎週木曜日 12:00～12:25、青山キャンパス内です。

詳細は事務WEB等でお知らせします。

(宗教センター 平野修一)

**編集後記** 世界中が注目する中、今年の米国アカデミー賞では、日本映画が健闘しました。『おくりびと』が外国語映画賞に、『つみきのいえ』が短編アニメーション賞に輝いたのです。両者に共通するのは、人間の命の尊厳を描いたところにあると言えるでしょう。どちらの作品も、死と向き合うことにより、生きることの素晴らしさを噛み締める内容となっています。私たちの青山学院も、学生一人ひとりを大切に、命の貴さを伝えることの出来る学院であり続けたいと願います。幼稚園から大学院までを擁する総合学園となった今だからこそ、初心に立ち返り、改めて建学の精神を見つめ直す必要があると思います。記念すべき第100号を迎えた『Wesley Hall News』が、これからもその一端を担い続けることが出来るよう、祈り願うものであります。(高砂民宣)

## Wesley Hall News 第100号

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 嶋田順好  
東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)

URL:<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>

E-mail:[agcac@jm.aoyama.ac.jp](mailto:agcac@jm.aoyama.ac.jp)

編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会

印刷 万全社